



女と男のパートナー会議 開催

女と男のパートナー会議
主催/富山県、富山県男女共同参画推進員、射水市・高岡市・氷見市連絡会 後援/射水市、高岡市

平成23年10月22日(土)、富山県と射水市、高岡市、氷見市の男女共同参画推進員の共催で、高周波文化ホールにおいて「女と男のパートナー会議」を開催しました。

瀬山和子委員長のあいさつで始まり、富山県より「本県における男女共同参画の取組み」説明の後、射水市男女共同参画推進委員による寸劇「めざまた！お父さん」を上演しました。その後、(株)インテック代表取締役会長の中尾哲雄氏による「女性の能力を生かさなければ日本はダメになる」と題した講演がありました。

講演では、「日本の人口減少に伴う労働力人口減少の問題を解決するには、女性の社会進出や能力を生かすことが不可欠であり、そのための環境整備を企業や地域社会全体で形成していくことが必要である。『女性は日本の社会の含み資産』であり、大きな期待の持てる能力があるので、みんなで意識改革していくことが重要だ」と述べられました。

これからの男女共同参画社会へ向けて、大きな示唆をいただいた講演となりました。

◆ 講演を聴いて

大門地区委員 山崎 京子

「女性の能力を生かさなければ日本はダメになる」と題し講演された中尾氏は、自分の生まれ育った環境、人間関係を土台に、飾り気のない言葉で語られました。

私が興味をもったのは、日本の人口が4、50年後には4000万人減ること、それは韓国一国分の人口と同じであること、特に東京の女性は生涯に生む子どもの数が0.99人であること、このことから日本の将来は心配であると話されました。

インテックでも女性の進出は目ざましく、社長が2人、その他の役職にも多数の女性が就いているそうです。中尾氏は男性社会において女性から見た問題提起など、これを大事に育てていかなければならないと強く訴えておられました。

力強い言葉にあふれた講演はあっという間に過ぎてしまいましたが、中尾氏の人間形成の核には、魚津で一緒に生活した母の姿が大きいということが講演の中から伺える内容でした。



地区巡回講座として射水市民病院脳神経外科部長 赤江 豊先生をお迎えし、「脳梗塞にならないために」と題して約1時間程、講演していただきました。

「病気になる前には何らかの兆しがあり、それを見逃してはいけない!」と、食生活の改善、適度な運動、規則正しい生活など、具体的な説明を聞き、私自身、自己管理の悪さを反省した次第です。

最後の質疑応答では、健康に関心のある人から過去にかかった病気を心配した質問等があり、盛況のうちに終わることができました。

男女共同参画に関する企画として、こういう講座もいいもんだなぁと思いました。

(新湊地区委員 川田 常雄)

7月18日 新湊地区 / 「すしの握り方教室」

(堀岡コミュニティセンター)



寿司店本職の講師をお迎えして、すしの握り方教室を開催しました。

新鮮なネタを目の前にやる気満々の男性陣でしたが、握り酢の加減で手はご飯粒だらけ、いつまでたってもシャリが固まらず悪戦苦闘している人も。和やかな雰囲気の中、時間と共に段々上手くなって、納得のいく『上にぎり』の完成となりました。

いきいきサロンの方々と食事の後、長徳委員による『五感を研こう』の講演を聴き、男性も食への関心を持って、安全な食品を選ぶ知識と感覚を養う事が大切と感じました。

また機会があれば、是非参加したいといった声も多数聞かれ、『家事男(カジダン)』への良いきっかけ作りになったと思います。

(新湊地区委員 竹林 龍太郎)

11月5日 大門地区 / 「おいしいコーヒーの入れ方」

(二口コミュニティセンター)



男性料理教室

二口コミュニティセンターで男性の料理教室を開催。参加者は若者から還暦までの男性15名。

コーヒーはこだわる人も多いが、豆は『値段より鮮度』、『炒りたて・挽きたて・淹れたて』が3原則。湯は「粉に近い高さから静かに『真ん中』を意識して注ぐほどすっきりおいしい味になる」と指導を受けて、教室はいい香りが広がっていった。

その後、卵やレタス・トマト・ベーコンなどを挟み、ボリュームたっぷりのサンドウィッチも作り、皆でコーヒーと共に味わった。

「お湯の注ぎ方が学べた。いつもと違う味だった」と好評。今頃は、家庭サービスで活躍中かも知れない。 (大門地区委員 佐伯 日登美)

- ・越中だいもん凧まつり(5月15日)
- ・男女共同参画週間(6月23日~29日)
- ・女性に対する暴力をなくす運動(11月12日~25日)

PR活動

10月1日 大島地区 / 講演会「DVってこんなこと！」

(大島コミュニティセンター)



大島コミュニティセンターでNPO法人「プロジェクトひと・みち・まち」との共催で、高岡市男女平等推進センター相談員、長守信子さんの講演を聞きました。

「DVってこんなこと！」という演題で、相談者から見てくるDVの実態、何げない一言が被害者を追いつめること、また被害者への偏見はなぜ生まれるのか等、DV被害者を理解・支援するための知識を学びました。今後の法的支援を期待したいものです。
(大島地区委員 杉岡 美恵子)

10月27日 下地区 / 「ちぎり絵教室」

(下村コミュニティセンター)



今年の干支「たつ」を作りました。和紙をハサミで切りながら作っていく部分と、ちぎりながら作っていく部分がありました。ハサミを使用している時は、話声がきかれましたが、ちぎる部分となると声も出ないくらい集中して作業をしていました。同じ作品でも目や鼻の大きさや置き方により、各自の個性がでて良い作品ができました。

教室を始める前に、男女共同参画基本計画の概要資料をもとに“男女共同参画社会”や“推進員の活動”について紹介する時間をもつことができ、多少なりとも理解してもらえる場になったと感じました。
(下地区委員 島倉 静子)

11月6日 小杉地区 / 文化祭寸劇発表「介護は誰がするの？」

(中太閤山コミュニティセンター)



中太閤山地区の文化祭では、男女共同参画に関する寸劇発表は初めてとのこと。いぶかしげな思いで見てくださった地域の方々の前で、8名の推進員が、或るサラリーマン家庭の介護問題を取り上げ、「介護の担い手として男性も女性も共に支え合いましょう」と呼びかけました。

それまでの稽古になかったハプニングもあり、凝った衣装で方言丸出しのぶっつけ演技に、そこそこの笑いと共感を得ることができました。

(小杉地区委員 堀川 克子)

◆ 寸劇、朗読劇上演 ◆

- ・ 富山県男女共同参画推進員全体研修会 (富山国際会議場)
- ・ いみずしボランティアフェスティバル (小杉社会福祉会館)
- ・ 櫛田の里まつり
- ・ 浅井文化祭
- ・ 水戸田地域文化まつり
- ・ 堀岡なでしこ祭
- ・ ふたくち文化祭
- ・ 大門文化まつり



日本女性会議2011松江

平成23年10月14日から二日間、島根県松江市において開催された「日本女性会議」に参加しました。

1日目は、テーマ別に10分科会場で協議が行なわれました。2日目は、登山家の田部井淳子さんによる「エプロン外して夢の山」と題した記念講演とパネラー5人によるパネルディスカッションが行われました。

記念講演では、女性だけでエベレスト登山を目指したことや、南極へ行きたいと奮闘されたことなど、これまでの経験をユーモアを交えて語られ、その豊かな行動力に来場者はすっかり引き込まれた様子でした。

パネルディスカッションでは、男女共同参画における国際的な取組みと世界から見た日本の女性の地位の低さが指摘され、これまでの伝統的な意識を変えていくことが重要との意見が出されました。また、東日本大震災支援に関しても、女性の視点が重要であると指摘され、復興支援に女性からのニーズを取り込む必要があることなどが提起されました。



テーマ「歴史と文化を活かした地域づくり」

第8分科会参加報告

『古事記』にみる女たち男たち』

新湊地区委員 長 徳 一



射水市から列車を乗り継いで7時間半、会場に入ると、何とコーディネーターとパネリストの二人が奈良時代の装束を来て登場！

10月は「神無月」。だが、ここ出雲の国では全国の神様が集まるので「神在月」、まさに日本女性会議に全国の女神さん達が集まって来ている。

分科会では、『古事記』の伝承を男女共同参画の視点からひも解かれた。毛皮を剥がされた素戔（しろうさぎ、白兎ではない）にガマの花＝蒲黄（ほこう、止血効果がある）にて命を救うべき助言を行ったと伝えられるオオナムチ（後の大国主神）、国譲りの条件である神殿（今の出雲大社）を造り、様々な困難を乗り越え、大国主神の妻として夫を支え無事に国づくりに励んだとされる女神スセリ姫の話。古代は、男女共同参画による国づくりで始まり、成し遂げられたとの基調提言だった。

その後、二組のパネリストによる事例発表に注目した。

一組目は、かつての出雲今市駅（現在のJR出雲駅）から、出雲大社に通じる参道の拡幅工事に伴う新しい街路造りや、その周辺の町並み整備に積極的に官民協力で実績を挙げた「シャーネエレテ今市」の中心メンバーである女性画廊経営者の話。

二組目は、平成9年の松江市立病院移転に伴う発掘調査で掘り出された弥生時代「三重環豪遺跡」の保存運動に地元女性4名が中心的な役割を担った話。市民活動となり議会や行政を動かし、全国からも要望・陳情を得て、病院建設を隣接地に変更するまでに至ったという。平成13年には「国指定史跡：田和山史跡公園」となり、現在も「田和山サポートクラブ」として遺跡活用事業や維持管理作業を展開しているという話だった。

「まちづくりの歴史」を変え「歴史を残す」活動を大胆、積極的に展開し、地域ばかりでなく国や行政をも動かしたということであるが、その実績は今や、隣接の新市民病院の患者に対してリハビリや癒しの地となっていること、さらには市民や後世の多くの人々の学びの地となって活かし残されていくことへと広がりを見せている。

まさに、出雲の国づくりは女性たちが担っているとも言える現代版「女神たちによる、出雲の国づくり」の話に、参加者一同感嘆しきりの分科会だった。



編集後記

東日本大震災から1年。壮絶な被災によって、私たちは、改めて日ごろの『安全・安心』について見直す必要性を感じたり、広がる『風評被害』に心を痛めたりしました。

私たち推進委員は、男女共同参画の視点から、人権意識を確かにもちながら、啓発活動に取り組んでいきたいと感じました。

（小杉地区委員 堀川 克子）